

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/05/01

こう着感を打破できるか

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	RBAの政策スタンスを確認 予想レンジ: 92.000 ~ 97.500 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	来月利上げの可能性は? 予想レンジ: 85.500 ~ 91.300 円	4-5
<u>ランド/円</u>	➡	インフレ指標に注目 予想レンジ: 9.300 ~ 10.100 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



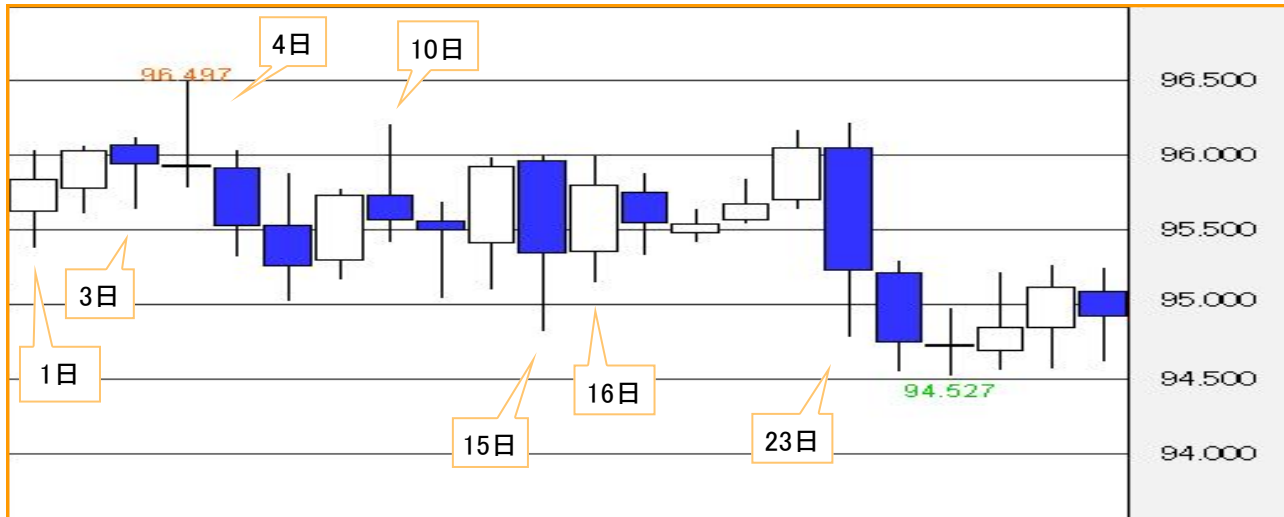
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	95.632円	96.497円	94.527円	94.928円



1日	豪準備銀行(RBA)が政策金利の据え置きを発表すると、豪ドル/円は96.038円まで上伸するも、声明文で「最近の豪ドル上昇、景気への支援効果を弱める見込み」と豪ドル高について懸念を示したため反落した。その後「年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が高収益の日本株を組み込んだファンドへの投資を始める」との報道を受けて円売りが優勢となり、95.870円まで再び上昇した。
3日	豪2月小売売上高が前月比+0.2%(予想:+0.3%)、中国3月非製造業PMIは54.5(前月:55.0)となった事を受け、豪ドル/円は95.654円まで下落。ただ、その後は欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が追加金融緩和に前向きな発言をすると、ユーロ/豪ドル相場でもユーロ売り・豪ドル買いが優勢となり、豪ドル/円は96.124円まで反発した。なおスティーブンスRBA総裁が「失業率は今後やや上昇する見通し」と発言したが、反応は薄かった。
4日	米3月雇用統計は予想よりやや弱い結果となるも、内容的にはそれほど悪いものではなかったことから、NYダウ平均株価が上昇すると豪ドル/円は2013年6月以来となる96.497円の高値を記録。ただその後は同株価が達成感から失速すると押し戻された。
10日	豪3月失業率が5.8%、新規雇用者数は1.81万人増と予想(6.1%、0.25万人増)より強い結果となり、豪ドル/円は96.208円まで上昇。ただ、中国3月貿易収支の輸入が前年比-11.3%と予想(+3.9%)より大きく落ち込んだ事や、中国の李克強首相が「中国は7.5%を下回る成長率を容認する事が可能」と発言した事が上値を抑えた。
15日	RBA議事録が公表されるも、声明とあまり変わらない内容であったため、豪ドル/円相場の反応は限定的。しかし、翌日発表される中国第1四半期国内総生産(GDP)に対する警戒感が高まる中、銅相場が下落した事や、NYダウ平均株価が下げに転じた事から、一時94.835円まで下落。その後、同株価が再びプラス圏を回復すると反発するなど、値動きの荒い展開となった。
16日	麻生財務相の「(株式について)GPIFが6月から動くので外人投資家が動く可能性がある」との発言を受けて日経平均株価が上げ幅を拡大した事や、中国第1四半期GDP・速報値が予想(前年比+7.3%)を上回る+7.4%となった事を受け、豪ドル/円は上昇。NYダウ平均株価が上昇すると95.997円まで一段高となった。
23日	豪第1四半期消費者物価は前年比が+2.9%、RBAが注目する基調インフレ率は前年比+2.65%と予想(+3.2%、+2.9%)を下回る伸びとなった。中国4月製造業PMI・速報値が4カ月連続で景気拡大・縮小の分岐点とされる50を下回った事も重石となり、豪ドル/円は急落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

4月の豪ドル/円相場は94.527～96.497円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.7%の小幅下落（豪ドル安・円高）となった。豪州のインフレ率はRBAのインフレ目標レンジ内に収まった事や、ウクライナや中国情勢不安を煽る材料が出なかった事以外にも、米早期利上げ観測が徐々に萎んだ事などから相場を動かす決定打に欠け、狭いレンジでのみみ合いとなった。

足下で豪州の景気や雇用に持ち直しの兆しが見られる中、今月はRBA関連の重要イベントが相次ぐ。RBA理事会では、豪ドルの相場について言及があるかに注目したい。また、RBA四半期金融政策ではインフレやGDP見通しが前回2月時点から修正されるかが焦点となるだろう。

なお、今月は米金融政策発表が予定されておらず、全体的に手掛かり材料難の印象は拭えない。その中で再び米利上げ観測が盛り上がるか、米4月雇用統計に注目したい。強気な事前予想を上回るようだと、米利上げ観測が再び台頭する可能性がある。その場合は米国をはじめとする主要国で株高となれば「リスク・オン」の流れとなって豪ドルは買われやすく、一方で米長期金利の上昇が目立つようだと主要通貨に対してドル買いが優勢となって豪ドル/円の上値を抑える事も考えられる。どちらの影響がより強く出るかを見極めたい。（川畑）

（予想レンジ：92.000～97.500円）

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

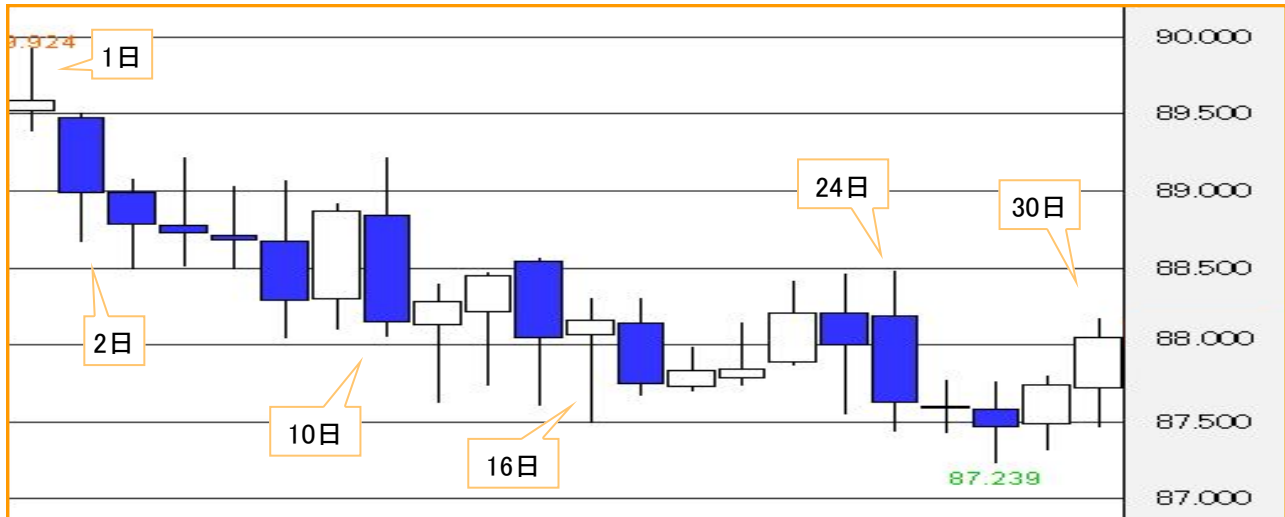
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(木)	4月中国製造業PMI	5/8(木)	欧州中銀金融政策発表
	4月米ISM製造業景況指数	5/9(金)	RBA四半期金融政策報告
5/2(金)	第1四半期豪生産者物価指数	5/13(火)	4月米小売売上高
	4月米雇用統計	5/15(木)	日本第1四半期GDP・一次速報
5/5(月)	3月豪住宅建設許可件数	5/16(金)	5月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	4月米ISM非製造業景況指数	5/20(火)	RBA議事録
5/6(火)	3月豪貿易収支	5/21(水)	日銀金融政策決定会合(20日～発表)
	RBAキャシュターゲット		米FOMC議事録(4月29・30日)
5/7(水)	3月豪小売売上高	5/22(木)	5月中国製造業PMI・速報
5/8(木)	4月豪雇用統計	5/25(日)	ウクライナ大統領選挙
	4月中国貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

NZドル/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	89.522円	89.924円	87.239円	88.048円



1日	NZの追加利上げ観測を背景にNZドル/米ドルが2011年8月以来となる0.87ドル台に乗せるタイミングで、NZドル/円は2007年11月以来となる89.924円の高値を記録。ただ、その後は90円の台を突破できなかった事や、NZドル/米ドルが達成感から反落した事から伸び悩んだ。
2日	1日に行われたNZ乳製品大手フォンテラが主催するミルクの入札価格が低水準となった事をきっかけに、NZ準備銀行(RBNZ)の利上げペースが鈍るのではとの見方が浮上。これを受けてNZドル売りが優勢となった。
10日	ハイテク株やバイオ株主導でNYダウ平均株価が大幅に値を下げた事を嫌気して、NZドル/円は88.060円まで下落した。
16日	NZ第1四半期消費者物価が前期比+0.3%、前年比+1.5%と予想(+0.5%、+1.7%)を下回る伸びとなった事を受け、NZドル/円は87.505円まで急落。ただ、その後は日経平均株価の上げ幅を拡大した事や、中国第1四半期国内総生産(GDP)が前年比+7.4%と予想(+7.3%)を上回った事などから反発した。
24日	取引開始直前、RBNZは政策金利を0.25%金利を引き上げ、年3.00%とした。これ自体は市場予想通りであったが、声明で「インフレ圧力が増大しており、今後2年間続く事が予想される」「この環境ではインフレ期待を引き続き抑制することが重要」「NZドル高は追加利上げの妨げにならない」などタカ派的な内容を発表した。これを受け、NZドル/円は取引開始直後に前日終値から40銭ほど上昇。本邦株高も追い風となり88.484円まで一段高となった。しかし「環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)についての閣僚級の協議を継続」との一部報道を受け、市場で「日米首脳会談ではTPP交渉が合意に至らなかった」との見方が広がって同株価が下落すると、NZドル/円は反落。「ロシア国防相が軍に対し、ウクライナ国境付近での軍事演習実施を命じたようだ」との報道を受けてリスク回避ムードが強まると、87.448円まで一段安となった。
30日	NZ3月住宅建設許可件数が前月比+8.3%と予想(+2.0%)を大きく上回った事を受け、NZドル/円は上昇。その後、米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明で米景気に楽観的な見通しが示された事を背景にNYダウ平均株価が上昇すると、88.177円まで一段高となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

4月のNZドル/円相場は87.239円～89.924円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.6%の下落(NZドル安・円高)となった。前月上昇した流れを引き継いで高く始まるも、90円の大台を前に失速。その後はNZの消費者物価などNZドルにとって弱い材料が相次いだため、じり安で推移した。RBNZの連続利上げがほぼ事前の予想通りであった事や、米早期利上げ観測が徐々に萎んだ事で為替相場にこう感が漂った事から、NZドル買いの動きは限られた。

市場のこう着した相場を打破できるか、今月は米4月雇用統計に注目したい。事前予想は強気な内容となっており、予想を上回る結果となれば米利上げ観測が再燃するきっかけとなり得る。その場合のNZドル/円相場への影響は、米国株の反応がポイントとなるだろう。

NZ国内では、第1四半期の失業率や小売売上高が発表される。先月、RBNZは声明で「利上げのスピードや幅は経済データ次第」との見解を示しており、今月はこれらの結果を確認しながら来月の利上げの可能性を読み解く事となりそうだ。また、RBNZは声明で「中銀は現在の為替レートが持続可能とは考えていない」との見方も示しており、NZドル/米ドル相場が一段と上昇する場面ではNZドル高けん制発言が出る事も考えられる。相場水準に注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 85.500～91.300円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

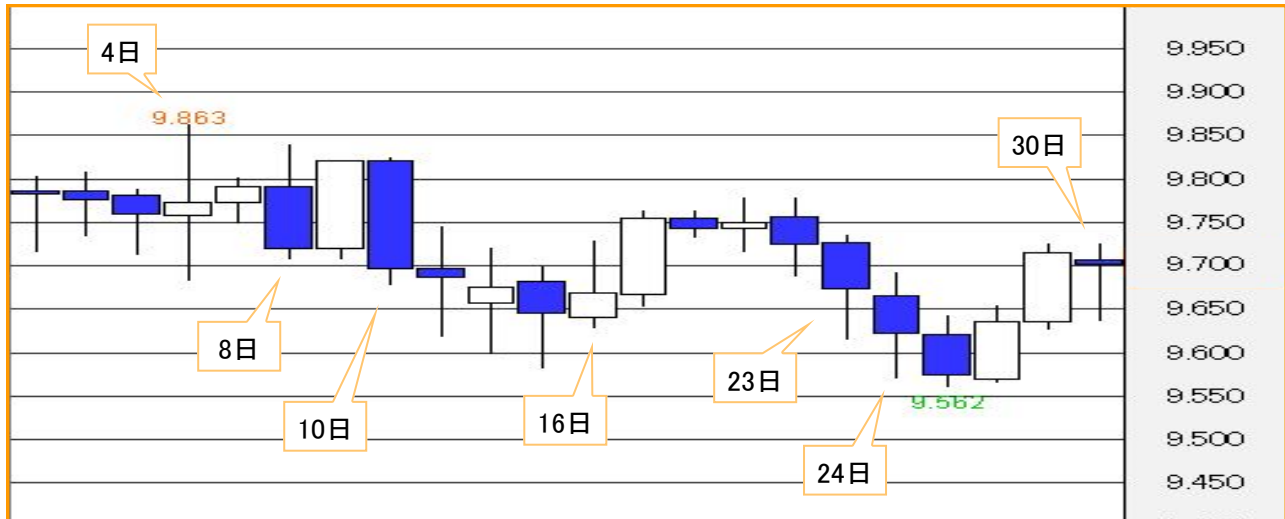
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(木)	4月中国製造業PMI	5/16(金)	5月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	4月米ISM製造業景況指数	5/19(月)	第1四半期NZ生産者物価
5/2(金)	4月米雇用統計	5/21(水)	日銀金融政策決定会合(20日～発表)
5/5(月)	4月米ISM非製造業景況指数		米FOMC議事録(4月29・30日)
5/7(水)	第1四半期NZ失業率	5/22(木)	5月中国製造業PMI・速報
5/8(木)	4月中国貿易収支	5/25(日)	ウクライナ大統領選挙
	欧州中銀金融政策発表	5/26(月)	4月NZ貿易収支
5/13(火)	4月米小売売上高	5/30(金)	4月NZ住宅建設許可
5/14(水)	第1四半期NZ小売売上高		
5/15(木)	日本第1四半期GDP・一次速報		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.786円	9.863円	9.562円	9.702円



4日	米3月雇用統計は予想よりやや弱い結果となったが、内容的にはそれほど悪いものではなかったことから、NYダウ平均株価が上昇するとランド/円は9.863円まで値を上げた。ただ、その後は同株価が失速したため上げ幅を縮小した。
8日	全般的なドル売りの流れによりドル/円が下落した影響をより強く受け、ランド/円は軟調に推移。なお、国際通貨基金(IMF)が南アの経済成長見通しを発表し、2014年が2.3%、15年は2.7%と1月時点(2.8%、3.3%)から引き下げたものの、直接の反応は薄かった。
10日	ハイテク株やバイオ株主導でNYダウ平均株価が大幅に値を下げた事を嫌気して、ランド/円は9.680円まで大きく値を下げた。
16日	南ア2月小売売上高が予想(+3.8%)を下回る前年比+2.2%となり、ランド/円はわずかに下落。その後は欧米株高を受けて9.729円まで値を上げるも、買いの勢いが一服すると上げ幅を縮小するなど、方向感が定まらなかった。
23日	欧米株の軟調推移を嫌気して、ランド/円は9.617円まで値を下げた。なお南ア3月消費者物価指数が前年比+6.0%と予想(+5.9%)を上回る伸びとなり、南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年+3~6%)の上限に到達するも、市場の反応は一時的となった。
24日	「ロシア国防相が軍に対し、ウクライナ国境付近での軍事演習実施を命じたようだ」との報道を受けてリスク回避ムードが強まると、ランド/円は一時9.572円まで急落した。
30日	南ア3月貿易収支が114億ランドの赤字と予想(15億ランドの赤字)を上回る赤字が伝わると小幅に値を下げる場面も見られたが一時的であった。

ZAR/JPY

今月のポイント

4月のランド/円相場は9.562円～9.863円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは0.9%の小幅下落(ランド安・円高)となった。値幅はわずか30銭程と2000年以降で最小となり、狭いレンジでもみ合いとなった。背景として、米早期利上げ観測が徐々に萎んだ事で為替相場にこう感が漂った上、ウクライナ情勢が世界的なリスク回避ムードにはつながらなかったと見る。

今月は、相場の高着感を打破できるかという点で、米4月雇用統計に注目したい。事前予想は強気な内容となっており、予想を上回る結果となれば米利上げ観測が再燃するきっかけとなり得る。その場合のランド/円相場の影響について、米国株の反応が焦点となりそうだ。

また、南アでは金融政策発表が予定されている。前月のインフレ率はSARBのインフレ目標上限である6.0%であった。今月のインフレ率が目標上限を突破するようだと、利上げ期待が先行する事も考えられるが、足下の南ア経済の回復の遅れを考えるとSARBが積極的に利上げを行うとは考えにくい。また、マーカス総裁は前回の金融政策発表の場で利上げ幅が0.50%より小さくなる可能性を示唆しており、仮に利上げを実施したとしても0.25%となる事もあり得る。

なお7日の南ア総選挙について、ズマ大統領の公費流用疑惑があるものの、与党アフリカ民族会議(ANC)の支持率が依然として高いことから与党優勢となっている。サプライズとなる可能性は低いだろう。(川畑)

(予想レンジ:9.300～10.100円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(木)	4月中国製造業PMI	5/16(金)	5月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	4月米ISM製造業景況指数	5/21(水)	4月南ア消費者物価指数
5/2(金)	4月米雇用統計		日銀金融政策決定会合(20日～発表)
5/5(月)	4月米ISM非製造業景況指数		米FOMC議事録(4月29・30日)
	第1四半期南ア失業率	5/22(木)	5月中国製造業PMI・速報
5/7(木)	南ア総選挙		SARB政策金利発表
5/8(木)	4月中国貿易収支	5/25(日)	ウクライナ大統領選挙
	欧州中銀金融政策発表	5/27(火)	第1四半期南アGDP
5/13(火)	4月米小売売上高	5/29(木)	4月南ア生産者物価指数
5/14(水)	3月南ア実質小売売上高	5/30(金)	4月南ア貿易収支
5/15(木)	日本第1四半期GDP・一次速報		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。